

# 冬のSLJで 六目達成!



三目  
ガンゾウヒラメ



二目  
ヒラメ



一目  
マダイ



六目  
マハタ



五目  
カサゴ



四目  
サンパク



▲パターンがハマると気持ちイイ

も熱が入って面白くなるでしょ？」  
……耳を押さえて痛がっているのはタカハシゴーである。釣れないと「ココには魚いないんじゃないか？」とすぐ諦めモードになる男だ。だがヨッシーの言葉を聞き、改めて気合を入れた。  
何度かの流し変えとポイント移動のあと、あちこち

「いや、やっぱりSLJはガチで楽しいわ!!」  
ヨッシーが言う。  
「自分で自由自在にアクションをつけられるのがたまらないね。ポイントの状況を読んで、ヒットパターンを見付ける。1尾ならまだしも、連続ヒットで正解だと確信できたときの気持ちよさといったら!」  
フワフワからのただ巻きで、

途切れることのないラッシュアワー。  
釣れる魚が変わり飽きることがない。

「底付近でフワフワとジグを漂わせるようにしてから、ただ巻きしたんだ。  
フワフワ、かーらーのー、ただ巻き。アタリがなければ、もう一度フオール。そしてまた、フワフワ、かーらーのー、ただ巻き。ホラ、またアタったよ!」  
フワフワは、魚にルアーをアピールする動作だ。「ん?」とマダイがルアーに気付く。そしてただ巻きで弱よわしく逃げようとするベイトを演出する。この作戦が見事にハマった。

「SLJのコツは、魚がいると信じてることかな。  
これはおれの釣り全体のポリシーだけど、まず今ジグを落とす先には魚いると信じて。釣れないときは「魚がいるのに食わないのは自分の釣り方が合っていないからだ」と考える。  
そうすると、シャクリにも熱が入って面白くなるでしょ?」

「たーのしー!」  
満面の笑顔で細竿を曲げながら、上がってきたのはサンパク(イナダとワラサの間のサイズを指す、外房での呼称)だ。  
イチロウ、タカハシゴーを飛ばして、すかさずヨッシーがイナダを釣る。  
「青物はやっぱり早巻き。底をネチネチ誘って根魚を狙い、宙層ではスピーディーなワンピッチジャークで青物を食わせる。一回の投入で二度おいしい、SLJの鉄則だよ」  
面白いことに、この日は流すポイントによって釣れる魚が集中していた。朝イチのマダイ、青物に引き続き、ガンゾウヒラメ、ラッシュ、マハタラッシュ、カサゴラッシュ、そして再びのマダイラッシュなどが代わる代わる訪れた。

まるで山手線のように途切れることのないラッシュアワーに、飽きることがない。根を知り尽くした船長が、どこをどう流すかで、その場にいる魚種がピンポイントで釣れるようだ。  
「ポイントならもうちょっとまんべんなく釣れるんだけどね。」

で静かな歓声が上がリ、大きく竿が曲がった。青物ラッシュだ! ツリガチ! 取材班ではまずトモキ。  
「たーのしー!」  
満面の笑顔で細竿を曲げながら、上がってきたのはサンパク(イナダとワラサの間のサイズを指す、外房での呼称)だ。  
イチロウ、タカハシゴーを飛ばして、すかさずヨッシーがイナダを釣る。  
「青物はやっぱり早巻き。底をネチネチ誘って根魚を狙い、宙層ではスピーディーなワンピッチジャークで青物を食わせる。一回の投入で二度おいしい、SLJの鉄則だよ」  
面白いことに、この日は流すポイントによって釣れる魚が集中していた。朝イチのマダイ、青物に引き続き、ガンゾウヒラメ、ラッシュ、マハタラッシュ、カサゴラッシュ、そして再びのマダイラッシュなどが代わる代わる訪れた。